第 325 号 2023 年　8 月 10 日発行
出雲市塩冶有原町 1-50
社会福祉法人ことぶき福祉会『ことぶき園』
　発行責任者：山根広美
Tel　：（0853）31 - 9900
Fax：（0853）31 - 9901

「もう８月になったかね、早いわぁ。せわしないねぇ、人生なんかあっという間だわ。」先日、あるお年寄りさんとそのような話になり、時の流れの早さを感じました。誰もが平等にある時間ですが、時間の使い方や感じ方は人それぞれであると思います。今の世の中では、タイパ（タイムパフォーマンス）という言葉があるように、以前と比べ時間への価値観が変化してきています。効率を重視することや時間を短縮することが価値となり、そのためのものが次々と開発され、時間に追われる様な日々の中で、時間をお金で買うという価値観も生まれてきています。その中で、時間の使い方、特に『待つ』ということの意義について考えることがあります。

かつては何事も待つことが当たり前であったと思います。季節が来ると農作物を植え育て、旬のものを食べる事。写真は撮ったフィルムを現像しないとみる事ができない。それが今では、季節を問わずにお金を出せば、旬でなくても色々なものが食べられるようになり、写真も撮ったらその場ですぐに見られるようになりました。買い物もインターネットを利用すれば、お店に行かなくても、いつでも、どこでもできるようになりました。もちろんそれは、開発者の人たちの努力があり技術が進歩していったからですが、それと共に私たちはいつの間にか『待つ』ということが苦手になり、待つことの大切さを忘れてしまっているのではないかと思うことがあります。

では、グループホームでの生活の中ではどうでしょうか。効率よく時間を使ってやることと、ゆっくりと時間を使うことのメリハリは大切だと思いますが、その中で私たち職員が『待つ』ということはとても大切なことであると思います。それは、例えば職員のペースではなくお年寄りさんの生活のペースにゆったりのんびりと合わせること。職員がすぐに手や口を出すのではなく、お年寄りさんの自発的な行動や発言を促すことなど、色々とあると思いますが、それらの積み重ねが、本人の自己決定や自立した生活へと繋がっていくのではないかと思っています。一緒に過ごす時間が長くなり、生活に慣れてきてしまうと、ついつい「こうした方がいいだろう」と職員が勝手に考えて行動をしてしまうこともありますが、私たちだけで考えてしまうとそれは私たちの押し付けになり、お年寄りさんたちの生活ではなくなってしまうと思います。お年寄りさんが主体となる生活を送れることが、私たち職員が『待つ』ということが必要な意義ではないかと思います。

毎日の生活の中で、ついつい時間に追われてしまうこともあります。しかし、今一度時間の使い方を意識して過ごしていきたいと思います。お年寄りさんの行動を待つことができることも、福祉労働者としての大切なスキルの一つであると思います。そして、待っている時間にお年寄りさんのことを考え、思いを巡らせて、その方たちに合わせた行動がすぐにできるように心掛けておく必要もあると思います。限りある時間を有効に使うことは簡単なことではないと思います。だからこそ、同じ時間を共有できていることに感謝しながら、日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

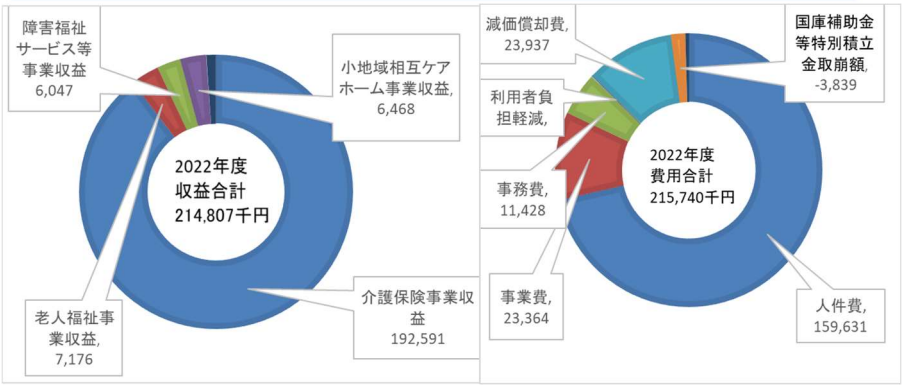
７月２４日に松江で開催中のポップサーカスに出かけられました。道中では、サーカスが来た時に家族で出かけた話や、学生の頃に松江で遊んだ話など、昔を懐かしんで盛り上がっておられました。間近で見る大迫力のサーカスに、ハラハラドキドキしながら、楽しまれていました。

また、８月１日にあった古志祭りの花火を見に出かけられました。「何年ぶりに花火を見たわ」と喜んでおられました。

暑い日が続きますが、楽しみのある外出や涼を求めての外出をしていきたいと考えています。

「饅頭が食べたいな」
その一言で始まった饅頭づくり。
「初めて作るわ」と言われながらも上手に作っておられました。

ことぶき福祉会　2022年度会計報告　（単位千円）



ことぶき福祉会からのお知らせ

第二ことぶき園と笑庵ことぶきではデイサービスの利用者さんを募集しています！
皆さんとお話ししたり、お食事したり、お出かけしたりしてみませんか？